

調査結果の概要

発育状態

1 年齢別平均値（表1）

年齢別平均値をみると、男子の身長が8歳（小学校3年）で、女子の身長が13歳（中学校2年）で、女子の座高が16歳（高等学校2年）でそれぞれ調査開始以来最高（以下「過去最高」という。）となった。

（1）身長

ア 男子は、8歳（小学校3年）が128.9cmで過去最高となった。

イ 女子は、13歳（中学校2年）が155.8cmで過去最高となった。

（2）体重

ア 男子は、各年齢とも過去最高はなかった。

イ 女子は、各年齢とも過去最高はなかった。

（3）座高

ア 男子は、各年齢とも過去最高はなかった。

イ 女子は、16歳（高等学校2年）が86.0cmで過去最高となった。

表1 年齢別身長、体重、座高の平均値（平成18年度）

（単位：cm、kg）

区分	男子			女子		
	身長	体重	座高	身長	体重	座高
5歳（幼稚園）	110.8	19.0	62.1	110.3	18.8	61.7
6歳（小学校1年）	116.7	21.3	65.1	115.9	20.9	64.7
7（2年）	122.6	23.9	67.7	121.9	23.4	67.4
8（3年）	128.9	27.6	70.7	127.6	26.2	70.0
9（4年）	133.7	30.6	72.7	133.8	30.1	72.9
10（5年）	139.2	34.7	75.2	140.0	33.8	75.7
11（6年）	145.7	39.1	78.0	147.3	39.2	79.5
12歳（中学校1年）	153.3	46.1	81.8	152.3	44.0	82.1
13（2年）	160.9	50.7	85.4	155.8	48.0	84.0
14（3年）	166.1	56.0	88.1	157.1	50.2	84.9
15歳（高校1年）	168.9	60.8	90.5	158.0	51.5	85.3
16（2年）	170.5	61.3	91.4	158.5	53.2	86.0
17（3年）	171.3	63.7	91.9	158.7	53.4	85.7

注）網掛けは、調査開始（昭和23年度）以来の最高値である。

2 50年前（昭和31年度）との比較（図1、図2、図3、図4）

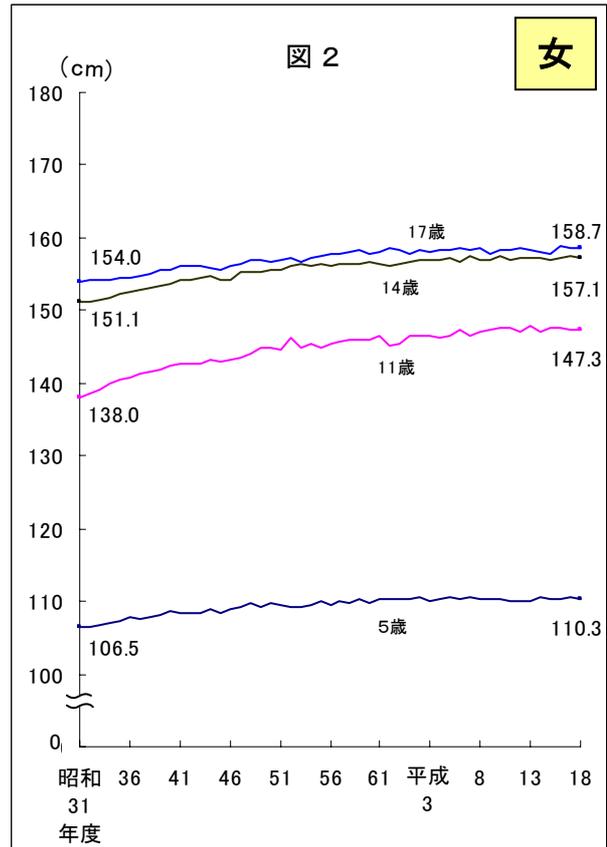
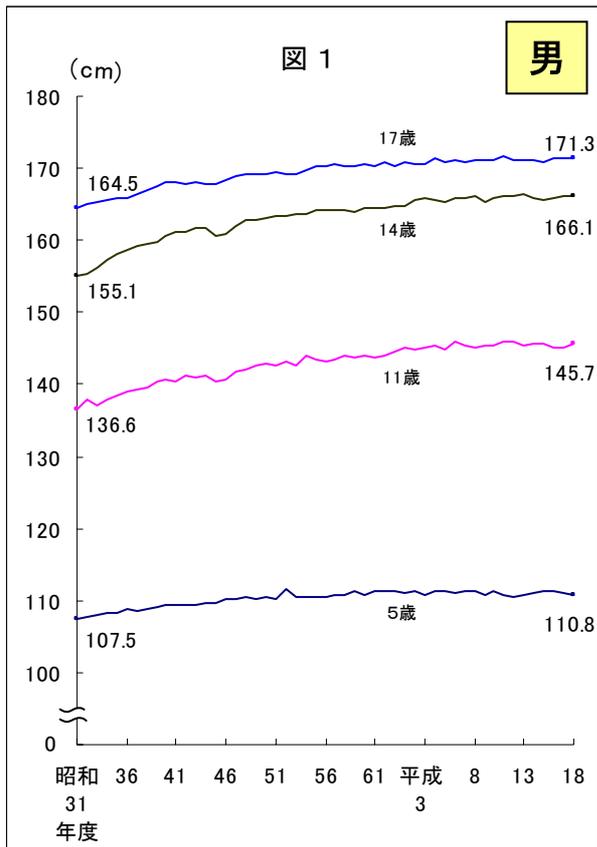
（1）身長

今年度の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校の最高学年（5歳、11歳、14歳、17歳）の結果を50年前の昭和31年度と比較すると、男子は5歳が3.3cm、11歳が9.1cm、14歳が11.0cm、17歳が6.8cm、女子は5歳が3.8cm、11歳が9.3cm、14歳が6.0cm、17歳が4.7cmそれぞれ上回っている。

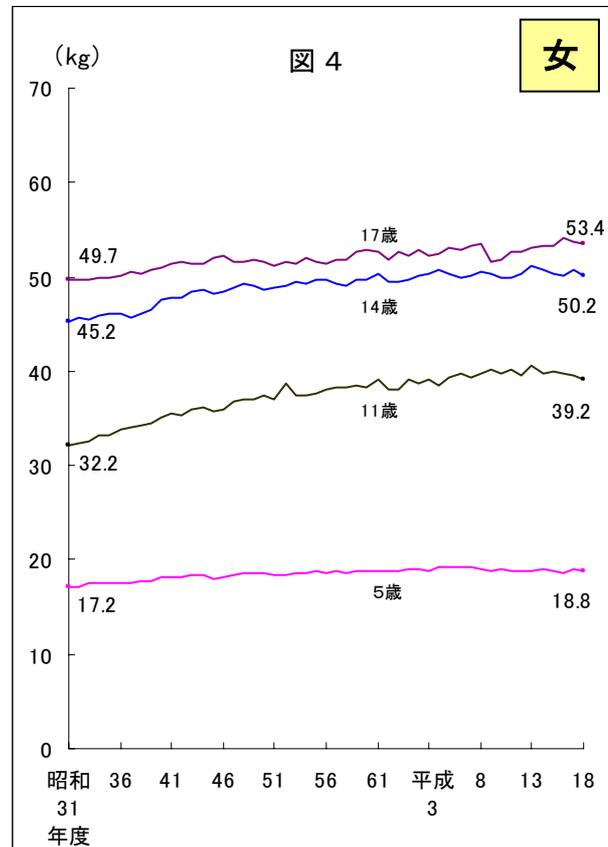
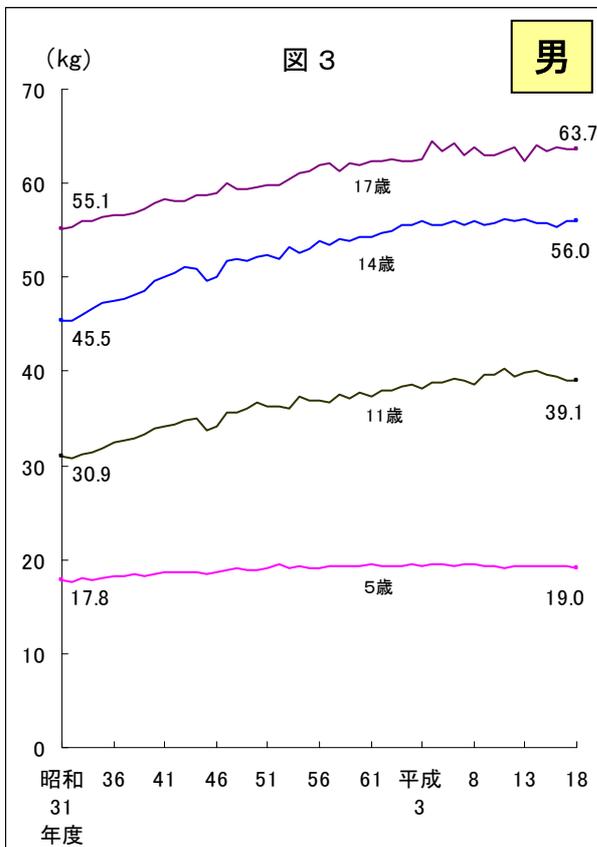
（2）体重

身長と同様に50年前の昭和31年度と比較すると、男子は5歳が1.2kg、11歳が8.2kg、14歳が10.5kg、17歳が8.6kg、女子は5歳が1.6kg、11歳が7.0kg、14歳が5.0kg、17歳が3.7kgそれぞれ上回っている。

身長の平均値の推移（昭和31年度～平成18年度）



体重の平均値の推移（昭和31年度～平成18年度）



3 年齢間比較 (表2)

年齢間の差を比較すると、男子は身長が「11～12歳」及び「12～13歳」で、体重、座高は「11～12歳」で最大となった。女子は、身長、体重、座高とも「10～11歳」で最大となった。

表2 年齢間差 (平成18年度)

(単位:cm, kg)

区分	男子			女子		
	身長	体重	座高	身長	体重	座高
5～6歳	5.9	2.3	3.0	5.6	2.1	3.0
6～7	5.9	2.6	2.6	6.0	2.5	2.7
7～8	6.3	3.7	3.0	5.7	2.8	2.6
8～9	4.8	3.0	2.0	6.2	3.9	2.9
9～10	5.5	4.1	2.5	6.2	3.7	2.8
10～11	6.5	4.4	2.8	7.3	5.4	3.8
11～12	7.6	7.0	3.8	5.0	4.8	2.6
12～13	7.6	4.6	3.6	3.5	4.0	1.9
13～14	5.2	5.3	2.7	1.3	2.2	0.9
14～15	2.8	4.8	2.4	0.9	1.3	0.4
15～16	1.6	0.5	0.9	0.5	1.7	0.7
16～17	0.8	2.4	0.5	0.2	0.2	0.3

注) 網掛けは、間差の最大値を示す。

4 男女間比較 (表3)

同年齢の男子と女子とを比較すると、5歳から8歳までは身長、体重、座高ともに男子が女子を上回っているが、9歳・10歳の身長、座高、11歳の身長、体重、座高、12歳の座高で女子が男子をそれぞれ上回っている。

13歳から身長、体重、座高ともに男子が女子との差を広げ、男女差が最大になる時期は17歳である。

表3 年齢別男女差 (平成18年度)

(単位:cm, kg)

区分	身長	体重	座高
5歳 (幼稚園)	0.5	0.2	0.4
6歳 (小学校1年)	0.8	0.4	0.4
7 (2年)	0.7	0.5	0.3
8 (3年)	1.3	1.4	0.7
9 (4年)	*0.1	0.5	*0.2
10 (5年)	*0.8	0.9	*0.5
11 (6年)	*1.6	*0.1	*1.5
12歳 (中学校1年)	1.0	2.1	*0.3
13 (2年)	5.1	2.7	1.4
14 (3年)	9.0	5.8	3.2
15歳 (高校1年)	10.9	9.3	5.2
16 (2年)	12.0	8.1	5.4
17 (3年)	12.6	10.3	6.2

注) *印は、女子の数値が男子を上回っていることを示す。

5 世代間比較 (表4、表5、図5、図6、図7、図8)

(1) 男子

昭和63年度生まれ(今年度17歳)と30年前の昭和33年度生まれ(親の世代)を比較すると、5歳では昭和63年度生まれが、身長が1.8cm、体重が1.2kgそれぞれ上回っている。世代間差が最大になるのは、身長、体重ともに12歳で、身長が6.6cm、体重が7.4kgいずれも昭和63年度生まれが親の世代を上回っている。

また、それぞれの世代の年間発育量が最大となる時期は、身長、体重ともに昭和63年度生まれが11歳、親の世代が12歳となった。

表4 昭和63年度生まれと昭和33年度生まれ男子の比較

(単位:cm、kg)

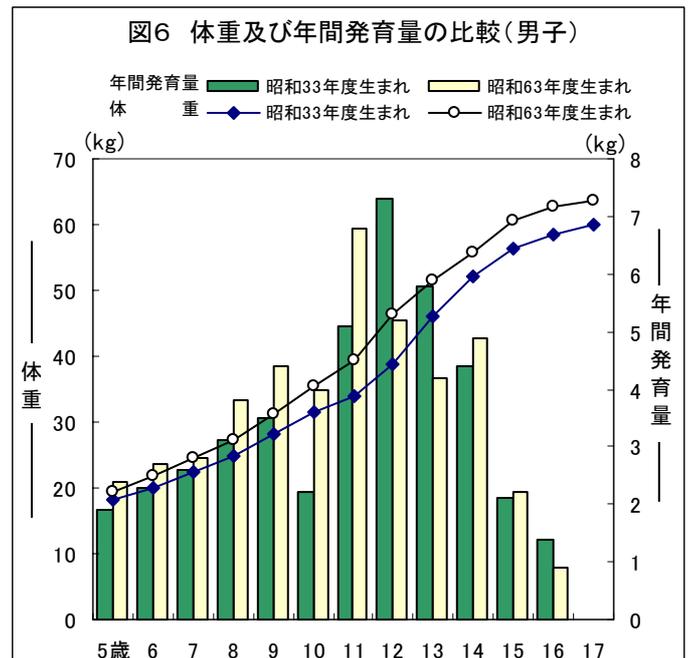
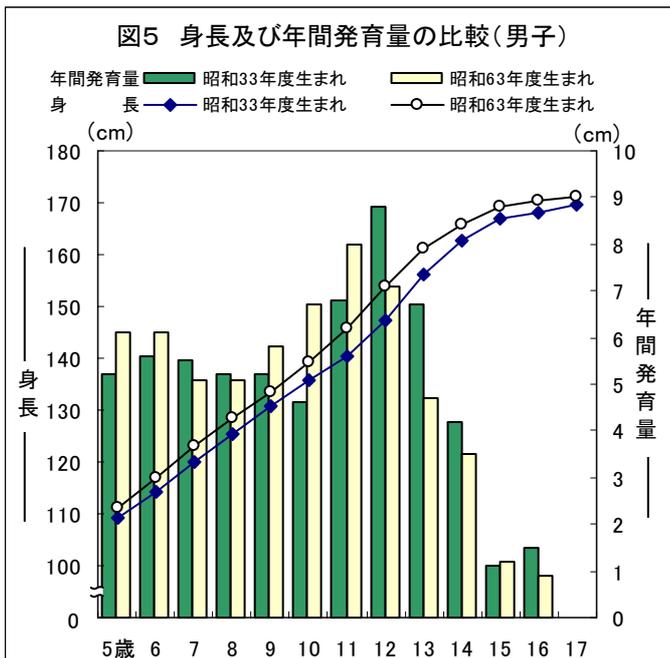
区分	身長					体重				
	昭和63年度生まれ	年間発育量	昭和33年度生まれ	年間発育量	世代間差	昭和63年度生まれ	年間発育量	昭和33年度生まれ	年間発育量	世代間差
5歳 (幼稚園)	111.0	6.1	109.2	5.2	1.8	19.4	2.4	18.2	1.9	1.2
6歳 (小学校1年)	117.1	6.1	114.4	5.6	2.7	21.8	2.7	20.1	2.3	1.7
7 (2年)	123.2	5.1	120.0	5.5	3.2	24.5	2.8	22.4	2.6	2.1
8 (3年)	128.3	5.1	125.5	5.2	2.8	27.3	3.8	25.0	3.1	2.3
9 (4年)	133.4	5.8	130.7	5.2	2.7	31.1	4.4	28.1	3.5	3.0
10 (5年)	139.2	6.7	135.9	4.6	3.3	35.5	4.0	31.6	2.2	3.9
11 (6年)	145.9	8.0	140.5	6.8	5.4	39.5	6.8	33.8	5.1	5.7
12歳 (中学校1年)	153.9	7.1	147.3	8.8	6.6	46.3	5.2	38.9	7.3	7.4
13 (2年)	161.0	4.7	156.1	6.7	4.9	51.5	4.2	46.2	5.8	5.3
14 (3年)	165.7	3.5	162.8	4.2	2.9	55.7	4.9	52.0	4.4	3.7
15歳 (高校1年)	169.2	1.2	167.0	1.1	2.2	60.6	2.2	56.4	2.1	4.2
16 (2年)	170.4	0.9	168.1	1.5	2.3	62.8	0.9	58.5	1.4	4.3
17 (3年)	171.3	...	169.6	...	1.7	63.7	...	59.9	...	3.8
総発育量	60.3		60.4			44.3		41.7		

注1) 年間発育量とは、例えば、昭和63年度生まれの「5歳時」の年間発育量を算出する場合、平成7年度調査6歳の者の体位から平成6年度調査5歳の者の体位を差し引いたものである。

2) 総発育量は、17歳の者の体位から5歳の者の体位を差し引いたものである。

3) 網掛けの数値は、年間発育量の最大値及び世代間差の最大値である。

4) 昭和33年度生まれの11歳と12歳の数値は、都道府県集計が行われなかったため、全国値を掲載した。



(2) 女子

昭和63年度生まれと30年前の昭和33年度生まれ(親の世代)を比較すると、5歳では、昭和63年度生まれが身長2.3cm、体重1.5kgそれぞれ上回っている。世代間差が最大になるのは、身長が11歳、体重が12歳で身長が4.2cm、体重が4.1kgいずれも昭和63年度生まれが親の世代を上回っている。

また、それぞれの世代の年間発育量が最大となる時期は、身長ではどちらの世代でも9歳、体重では昭和63年度生まれが11歳、親の世代が12歳となった。

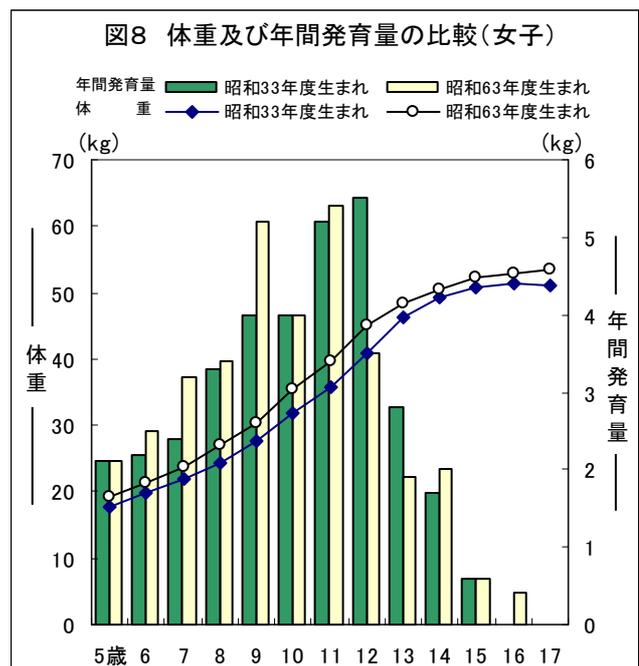
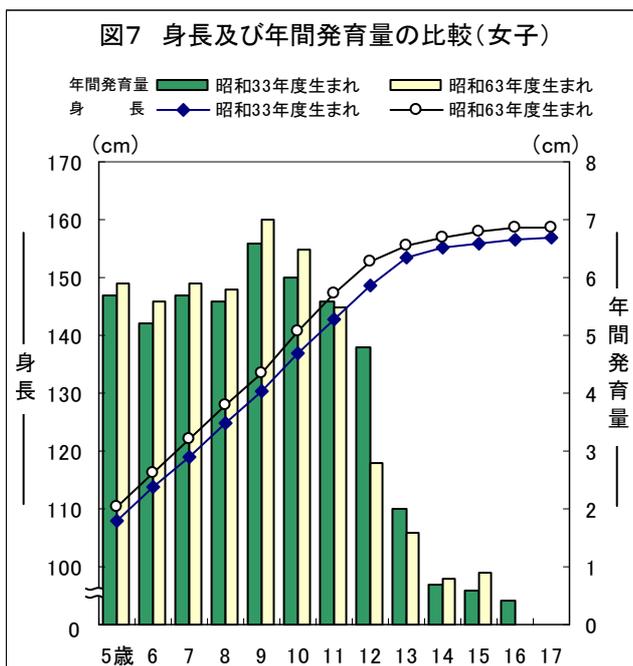
表5 昭和63年度生まれと昭和33年度生まれ女子の比較

(単位:cm, kg)

区分	身長					体重				
	昭和63年度生まれ	年間発育量	昭和33年度生まれ	年間発育量	世代間差	昭和63年度生まれ	年間発育量	昭和33年度生まれ	年間発育量	世代間差
5歳 (幼稚園)	110.4	5.9	108.1	5.7	2.3	19.2	2.1	17.7	2.1	1.5
6歳 (小学校1年)	116.3	5.6	113.8	5.2	2.5	21.3	2.5	19.8	2.2	1.5
7 (2年)	121.9	5.9	119.0	5.7	2.9	23.8	3.2	22.0	2.4	1.8
8 (3年)	127.8	5.8	124.7	5.6	3.1	27.0	3.4	24.4	3.3	2.6
9 (4年)	133.6	7.0	130.3	6.6	3.3	30.4	5.2	27.7	4.0	2.7
10 (5年)	140.6	6.5	136.9	6.0	3.7	35.6	4.0	31.7	4.0	3.9
11 (6年)	147.1	5.5	142.9	5.6	4.2	39.6	5.4	35.7	5.2	3.9
12歳 (中学校1年)	152.6	2.8	148.5	4.8	4.1	45.0	3.5	40.9	5.5	4.1
13 (2年)	155.4	1.6	153.3	2.0	2.1	48.5	1.9	46.4	2.8	2.1
14 (3年)	157.0	0.8	155.3	0.7	1.7	50.4	2.0	49.2	1.7	1.2
15歳 (高校1年)	157.8	0.9	156.0	0.6	1.8	52.4	0.6	50.9	0.6	1.5
16 (2年)	158.7	0.0	156.6	0.4	2.1	53.0	0.4	51.5	-0.3	1.5
17 (3年)	158.7	...	157.0	...	1.7	53.4	...	51.2	...	2.2
総発育量	48.3		48.9			34.2		33.5		

注1) 年間発育量とは、例えば、昭和63年度生まれの「5歳時」の年間発育量を算出する場合、平成7年度調査6歳の者の体位から平成6年度調査5歳の者の体位を差し引いたものである。

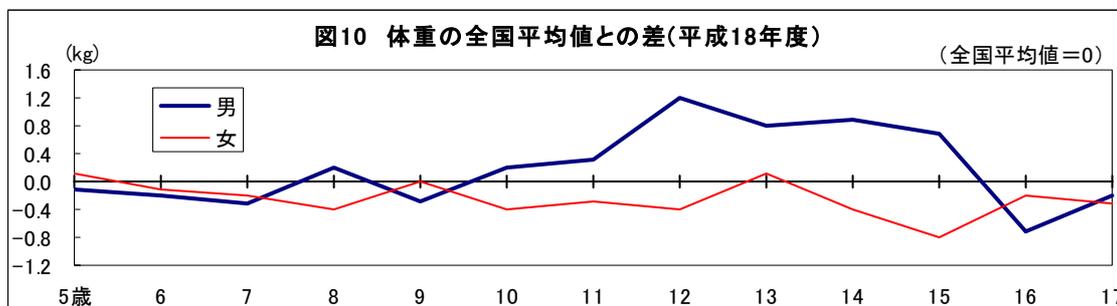
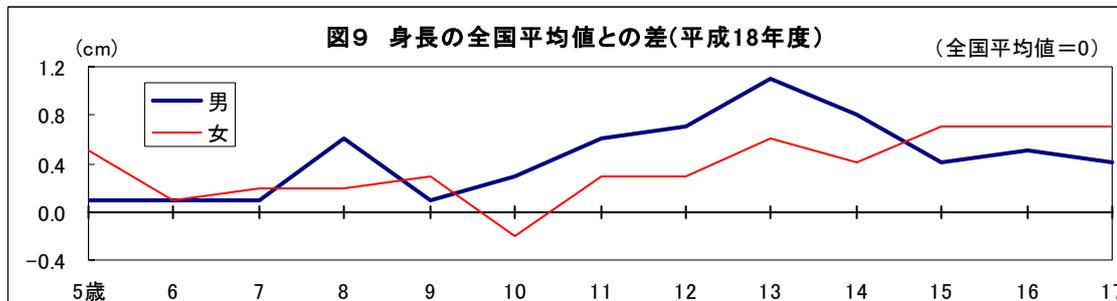
- 2) 総発育量は、17歳の者の体位から5歳の者の体位を差し引いたものである。
- 3) 網掛けの数値は、年間発育量の最大値及び世代間差の最大値である。
- 4) 昭和33年度生まれの11歳と12歳の数値は、都道府県集計が行われなかったため、全国値を掲載した。



6 全国との比較 (図9、図10)

身長を全国平均値と比較すると、男子は全年齢で全国平均値を上回っている。女子は、10歳を除く各年齢で全国平均値を上回っている。

体重は、男子は8歳と10～15歳の各年齢で全国平均値を上回っている。女子は5歳、9歳及び13歳を除く各年齢で全国平均値を下回っている。



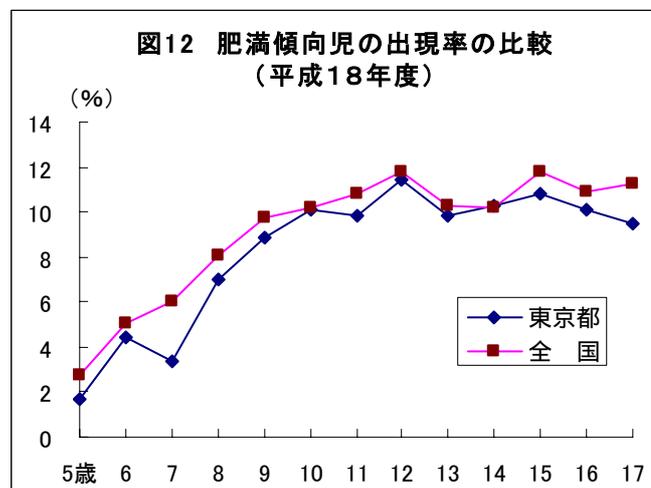
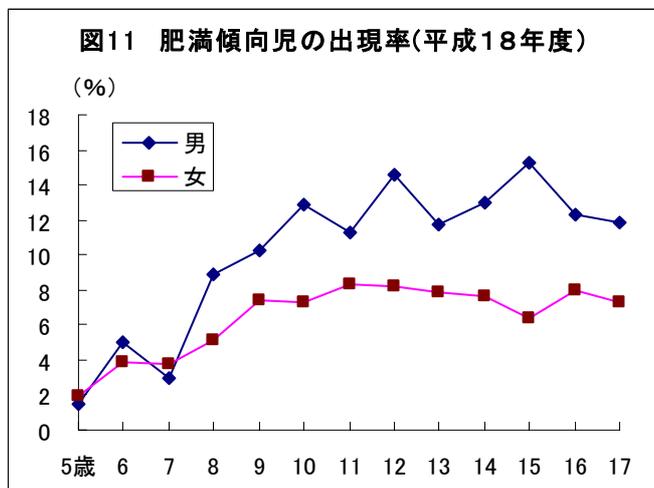
7 肥満傾向児の出現率 (図11、図12)

平成18年度の肥満傾向児の出現率をみると、最も高いのは、男子は15歳、女子は11歳で、最も低いのは、男女ともに5歳である。

男女計を全国と比較すると、14歳を除く各年齢で全国平均値を下回っている。

注) 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。

$$\text{肥満度} = (\text{実測体重} - \text{身長別標準体重}) / \text{身長別標準体重} \times 100 (\%)$$



健康状態

1 疾病・異常等の状況（表6）

児童、生徒及び幼児の主な疾病・異常等の被患率をみると、「むし歯（う歯）」の者の割合が高く、小学校で56.39%、高等学校で61.87%となっている。

表6 主な疾病・異常等の被患率(平成18年度)

区分	裸眼視力 1.0未満の者	眼の疾病・異常	耳疾患	鼻・鼻腔疾患	むし歯（う歯）			アトピー性皮膚炎	心電図異常	蛋白検出の者	寄生虫卵保有者	ぜん息
					計	処置完了者	未処置のある者					
幼稚園	X	2.26	1.74	2.04	48.28	21.68	26.60	4.25	...	1.06	0.06	2.54
小学校	31.83	4.46	6.16	10.94	56.39	30.52	25.87	3.89	1.56	0.65	0.27	5.80
中学校	59.05	4.55	3.69	9.04	48.45	24.73	23.72	3.91	2.52	2.26	...	4.86
高等学校	X	4.14	2.56	11.25	61.87	37.10	24.77	2.39	2.48	1.75	...	2.31

注1) 心電図異常については、6歳、12歳及び15歳のみ実施している。

注2) 寄生虫卵保有者については、5歳及び8歳のみ実施している。

2 主な疾病・異常等の被患率（表6、図9、図10、統計表7-1）

(1) むし歯（う歯）

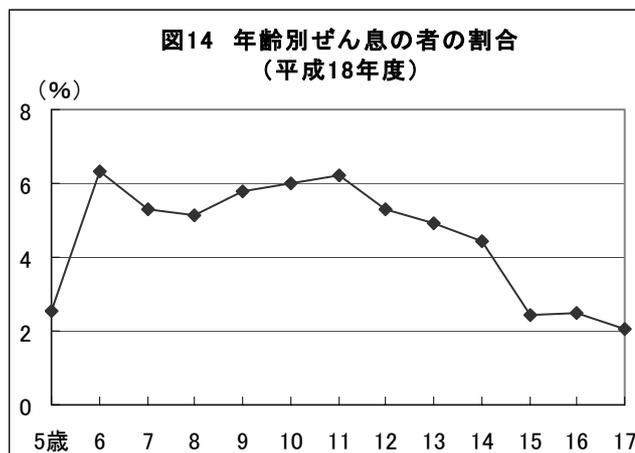
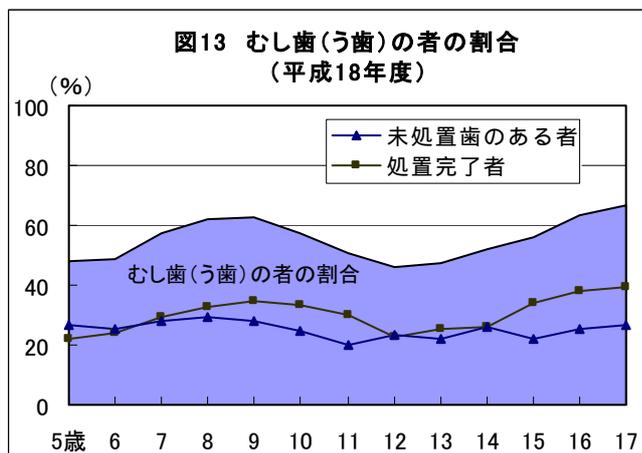
むし歯（う歯）の者の状況をみると、全ての学校種で約4分の1が「未処置歯のある者」となっている。むし歯の者の割合を年齢別にみると、5歳から9歳まで及び12歳から17歳までは年齢が高くなるにつれて割合が上昇しているが、9歳から12歳までは年齢が高くなるにつれて割合が低下している。

(2) アトピー性皮膚炎

アトピー性皮膚炎の者の割合を年齢別にみると、5歳から14歳までは4%前後となっているが、15歳以上は3%以下となっている。

(3) ぜん息

ぜん息の者の割合を年齢別にみると、6歳が最も高く、6.32%となっている。11歳以上は年齢が高くなるにつれて割合が低下する傾向となっている。



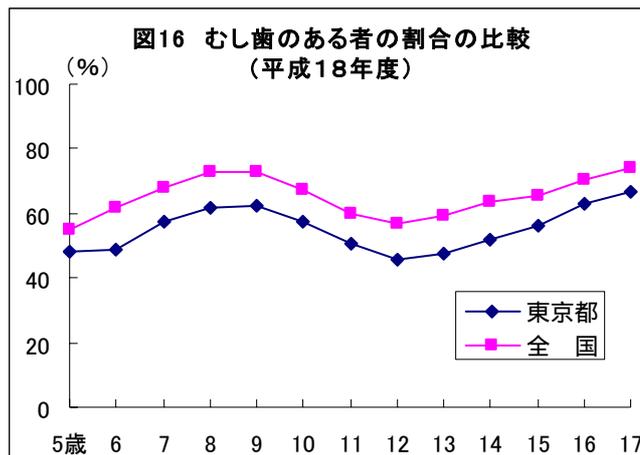
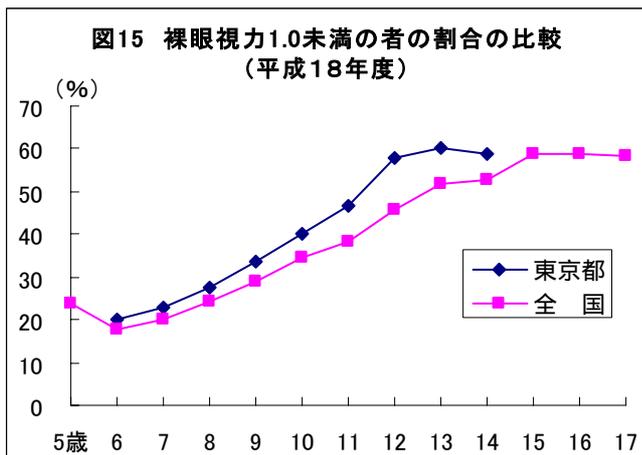
3 全国との比較 (図 15、図 16、図 17、図 18)

(1) 裸眼視力

裸眼視力 1.0 未満の者の割合を全国と比較すると、比較可能な 6 歳から 14 歳までの全年齢で全国より高く、12 歳では 11.98 ポイント上回っている。

(2) むし歯(う歯)

むし歯のある者の割合を全国と比較すると、全年齢で全国より低く、6 歳では 13.07 ポイント下回っている。



注)5歳及び15~17歳については、「X」表示のため数値を公表していません。

(3) アトピー性皮膚炎

アトピー性皮膚炎の者の割合を全国と比較すると、7歳、10歳及び15歳以外の各年齢で全国を上回り、13歳では1.54ポイント上回っている。

(4) ぜん息

ぜん息の者の割合を全国と比較すると、全年齢で全国より高く、11歳では2.60ポイント上回っている。

